

# 景気動向調査結果報告書 【やお景況レポート】

2025年 第Ⅳ・四半期(10~12月) VOL. 119

八尾商工会議所  
八 尾 市



## 目 次

【調査実施の概要】 .....	1
【調査結果の総括】 .....	2
1. 製造業の景気動向 .....	5
2. 非製造業の景気動向 .....	9
3. 2025年度の冬季賞与の支給状況 .....	13
4. 大阪・関西万博による効果 .....	14
5. 2025年度の冬季賞与の支給状況、大阪・関西万博による効果を 含めた自由回答 .....	18

## 【 調査実施の概要 】

本調査は、地域経済の総合的な動向を把握し、産業振興のための基礎資料の作成及び経営者への情報提供を目的として実施している。1996年7月に第1回目の景気動向調査を実施し、今回（2026年2月実施）の調査で119回目となる。

調査対象事業所は、八尾市内に立地する従業員5人以上の事業所を母集団として、その中から、製造業600社、非製造業（建設業、卸売業、小売業、サービス業）400社の合計1,000社を無作為に抽出した。

調査方法は、調査票を郵送し、回収をFAXで行った。

今回の回収率は下表に示すとおり、製造業、非製造業ともに20.5%、全体でも20.5%である（表1～2参照）。

（注）2013年4～6月期調査より調査方法の変更を行った。2014年1～3月期調査より調査対象事業所数を削減した（従来1,300社→1,000社）。

表1.業種別回答状況

業種	発送数	回答数	回収率
金属製品	160	32	20.0%
機械器具	170	32	18.8%
その他の製造業	270	59	21.9%
製造業計	600	123	20.5%
建設業	130	25	19.2%
卸売業	61	14	23.0%
小売業	59	9	15.3%
サービス業	150	34	22.7%
非製造業計	400	82	20.5%
合計	1,000	205	20.5%

表2.規模別回答状況

規模別	製造業			非製造業			全体		
	発送数	回答数	回収率	発送数	回答数	回収率	発送数	回答数	回収率
5～19人	328	59	18.0%	261	46	17.6%	589	105	17.8%
20～49人	173	44	25.4%	94	24	25.5%	267	68	25.5%
50～99人	60	11	18.3%	24	7	29.2%	84	18	21.4%
100～299人	33	7	21.2%	17	4	23.5%	50	11	22.0%
300人以上	6	2	33.3%	4	1	25.0%	10	3	30.0%
合計	600	123	20.5%	400	82	20.5%	1,000	205	20.5%

## 【 調査結果の総括 】

### ～景気に減速感はあるが、金融政策が今後の焦点～

10～12月期の八尾市の業況判断DI<sup>1</sup>は全産業で1と、前回調査から大きく悪化した。(2025年9月=10→2025年12月=1)。業種別にみると、製造業のDIは▲3となり、前回調査から大きく悪化した(9月=3→12月=▲3)。非製造業のDIは5となり、前回調査から大幅に悪化した(9月=18→12月=5)。

秋の旅行シーズン以降観光産業が上向き、12月には季節商品や年末商戦が活発になったほか、AI需要の拡大を受けた半導体や電気機械関連の生産が好調であったことがプラス要因となった。一方で、原材料や物流にかかるコスト負担の増加や人手不足の継続に加えて、長期金利の上昇もマイナス要因となった。

今後の景気動向は、春闘における賃上げの動向や物価高対策の実施など、家計の実質購買力の回復が焦点となる。プラス材料は底堅い旅行需要や半導体・AI・防衛関連の成長投資となる一方で、日本銀行の政策金利引き上げ、長期金利の上昇や日中関係の不安定化、人手不足がマイナス材料であろう。今後は、金融政策の動向を注視しつつも、緩やかな持ち直し基調をたどると見込まれる。

図1. 業種別天気図(景気水準)

	2025年1～3月期		2025年4～6月期		2025年7～9月期		今回 2025年10～12月期		天気図 前回比較
	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	
全産業		▲ 2		12		10		1	
製造業		▲ 12		8		3		▲ 3	
金属製品		▲ 11		12		15		▲ 25	
機械器具		▲ 17		9		0		12	
その他の製造業		▲ 8		5		0		0	
非製造業		26		19		18		5	
建設業		31		31		31		0	
卸売業		0		0		8		▲ 7	
小売業		0		17		14		17	
サービス業		33		22		25		13	

※数値は業況判断DI。景況天気図で示した景況判断は、業況判断DI値によって判定。本設問は2012年4～6月期調査より開始しており、景況判断は暫定的に、DI値がプラス10以上であれば晴れ、0～9は薄日、▲10～▲11は曇り、▲20～▲11は小雨、▲21以下は雨とした。図表における前回調査との比較の矢印マークは、景況天気図に基づくものであり、が好転、が横ばい、が悪化を示す。

<sup>1</sup> DIは、各景況項目について、「良い、上昇、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、下落、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。日銀短観や本調査における「業況判断DI」は「良い」から「悪い」を引いた「水準」調査であるのに対して、本調査における「業況判断DI」以外の項目（「生産額」、「出荷額」など）は前期・前年同期と比べての「増加」などから「減少」などを引いた「方向性」調査である。なお、本稿ではマイナスを「▲」と表している。

日銀短観<sup>2</sup>（2025年12月調査）における全国および近畿の業況判断DI（全産業・全規模）と比較してみる。まず、全国、近畿ではわずかに改善した一方、八尾市は9ポイント悪化した。八尾市について業種別で見ると、製造業で6ポイント、非製造業で13ポイント悪化した。（図2～4）。

図2. 全産業・全規模の業況判断DI推移

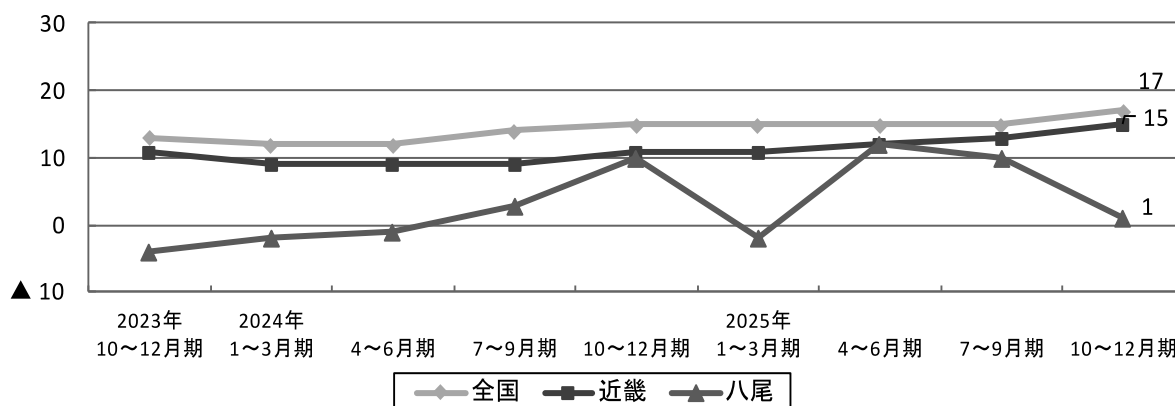


図3. 製造業・全規模の業況判断DI推移

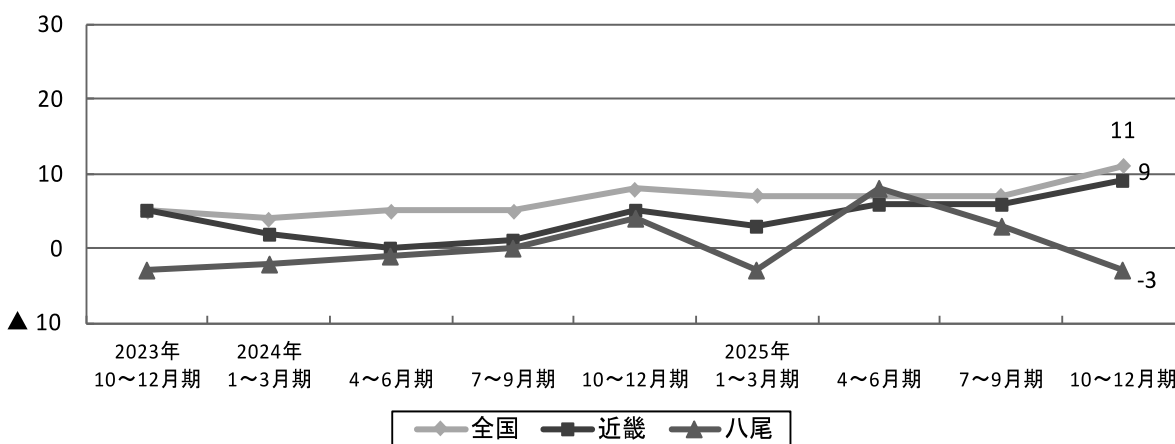
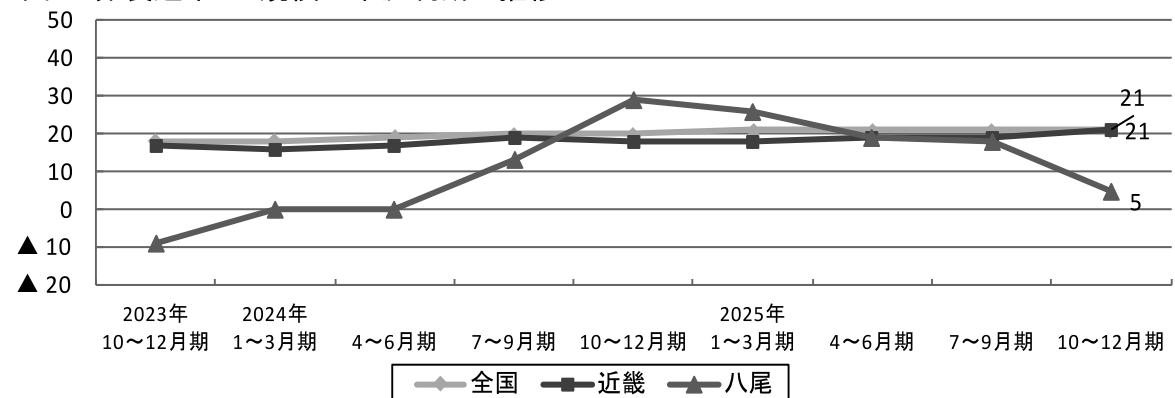


図4. 非製造業・全規模の業況判断DI推移



（資料）日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査-近畿地区-」

<sup>2</sup> 日銀短観は日本銀行「全国企業短期経済観測調査」の略。

景気の方角感を八尾市の各種前年同期比のDI<sup>3</sup>で確認すると（図5～6）、製造業においては、「生産額」「設備投資額」「製品販売価格」は全て悪化した。また、非製造業においては、「売上額」「販売先数・客数」「設備投資額」いずれも大幅に悪化した。

図5. 製造業の各種「前年同期比」DI推移

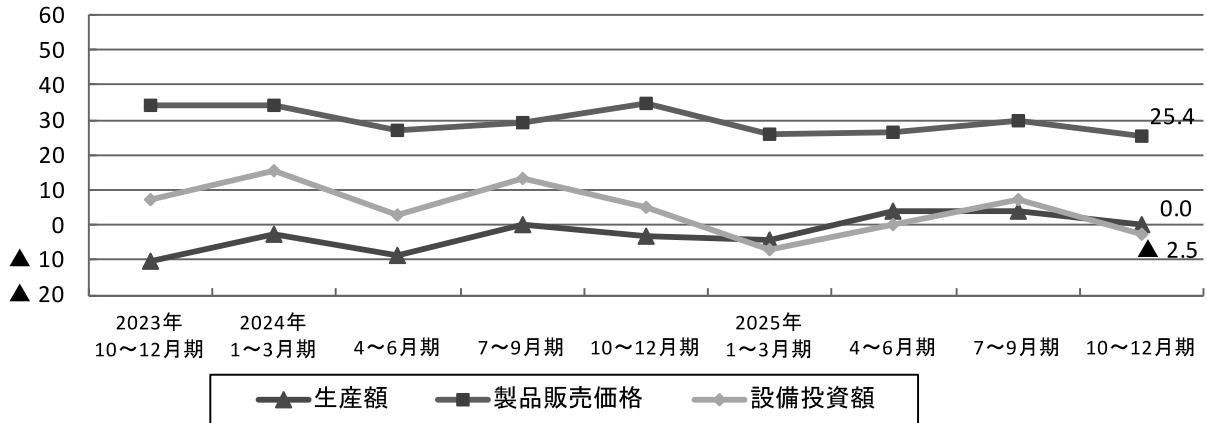
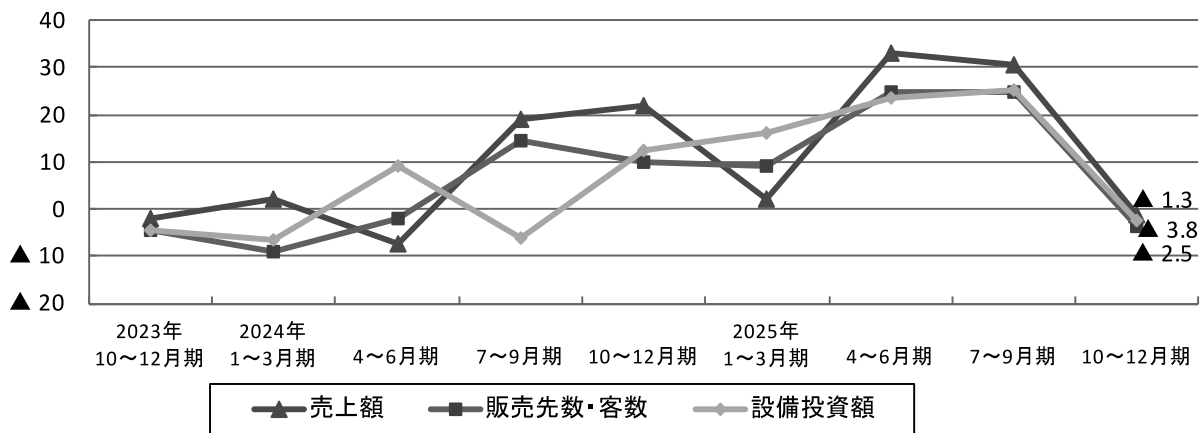


図6. 非製造業の各種「前年同期比」DI推移



<sup>3</sup> 「前年同期比」DIは、各景況項目について、前年同期と比較して「良い、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。

# 1. 製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



⇒

曇り

(今回)



## 【 生産額 】

製造業の2025年10～12月期における生産額DI（前期比、「増加」－「減少」）は0.0と、マイナスから±0となった（前々回▲2.2→前回▲2.3→今回0.0）。※▲はマイナスを表し、以下同様。

表3. 生産額(前期比)

業種	当期生産額は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		増加	横這	減少		
金属製品	32	25.0	46.9	28.1	▲ 3.1	7.4
機械器具	31	35.5	45.2	19.4	16.1	▲ 3.1
その他の製造業	59	18.6	55.9	25.4	▲ 6.8	▲ 5.8
製造業計	122	24.6	50.8	24.6	0.0	▲ 2.3

前年同期と比べた生産額DIは0.0と、プラスから±0になった（前々回3.8→前回3.9→今回0.0）。

表4. 生産額(前年同期比)

業種	当期生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		増加	横這	減少		
金属製品	32	25.0	46.9	28.1	▲ 3.1	25.9
機械器具	31	35.5	35.5	29.0	6.5	6.1
その他の製造業	59	28.8	40.7	30.5	▲ 1.7	▲ 5.8
製造業計	122	29.5	41.0	29.5	0.0	3.9

## 【 出荷額 】

10～12月期の出荷額DI（前期比、「増加」－「減少」）は1.6と、マイナスからプラスに転じた（前々回▲1.5→前回▲6.2→今回1.6）。業種別内訳をみると、金属製品で±0となり、機械器具でマイナスからプラスに転じ、その他の製造業マイナスが縮小に転じた。

表5. 出荷額

業種	当期出荷額は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		増加	横這	減少		
金属製品	32	28.1	43.8	28.1	0.0	7.4
機械器具	32	28.1	53.1	18.8	9.3	▲ 3.1
その他の製造業	59	20.3	57.6	22.0	▲ 1.7	▲ 13.0
製造業計	123	24.4	52.8	22.8	1.6	▲ 6.2

## 【製品在庫】

10～12月期の製品在庫DI（前期比、「不足」－「過剰」）は▲7.6と、マイナス（過剰超）幅は悪化した（前々回▲6.0→前回▲7.0→今回▲7.6）。業種別内訳をみると、金属製品、機械器具でマイナスから±0となり、その他の製造業でマイナス幅が拡大した。

表6. 製品在庫

業種	当期製品在庫は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		不足	適正	過剰		
金属製品	31	9.7	80.6	9.7	0.0	0.0
機械器具	31	3.2	93.5	3.2	0.0	▲ 3.0
その他の製造業	57	1.8	80.7	17.5	▲ 15.7	▲ 11.6
製造業計	119	4.2	84.0	11.8	▲ 7.6	▲ 7.0

## 【原材料仕入価格】

10～12月期の原材料仕入価格DI（前期比、「値上」－「値下」）は48.0と、プラス（値上超）幅は改善した（前々回47.3→前回45.3→今回48.0）。業種別内訳をみると、金属製品、機械器具でプラス幅が拡大し、その他の製造業でプラス幅が縮小した。

表7. 原材料仕入価格

業種	当期原材料仕入価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	32	53.1	43.8	3.1	50.0	42.4
機械器具	32	62.5	37.5	0.0	62.5	60.6
その他の製造業	59	42.4	54.2	3.4	39.0	39.1
製造業計	123	50.4	47.2	2.4	48.0	45.3

## 【製品販売価格】

10～12月期の製品販売価格DI（前期比、「値上」－「値下」）は21.2と、プラス（値上超）幅は縮小した（前々回27.8→前回30.2→今回21.2）業種別内訳をみると、機械器具を除き、全ての業種でプラス幅が縮小した。

表8. 製品販売価格(前期比)

業種	当期製品販売価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	32	21.9	78.1	0.0	21.9	37.0
機械器具	32	28.1	71.9	0.0	28.1	27.2
その他の製造業	59	18.6	79.7	1.7	16.9	29.0
製造業計	123	22.0	77.2	0.8	21.2	30.2

前年同期と比較した製品販売価格DIにおいては25.4と、プラス（値上超）幅は縮小した（前々回26.5→前回29.7→今回25.4）。

表9. 製品販売価格（前年同期比）

業種	当期製品販売価格は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	32	18.8	68.8	12.5	6.3	29.6
機械器具	31	41.9	58.1	0.0	41.9	33.4
その他の製造業	59	30.5	66.1	3.4	27.1	28.0
製造業計	122	30.3	64.8	4.9	25.4	29.7

### 【採算状況】

10～12月期の採算状況DI（前期比、「好転」－「悪化」）は▲13.8と、マイナス（悪化超）幅は拡大した（前々回▲15.9→前回▲12.5→今回▲13.8）。業種別内訳をみると、金属製品、その他の製造業でマイナス幅が拡大し、機械器具でマイナスからプラスに転じた。

表10. 採算状況

業種	当期採算状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	32	6.3	62.5	31.3	▲ 25.0	▲ 14.8
機械器具	32	21.9	65.6	12.5	9.4	▲ 6.1
その他の製造業	59	10.2	59.3	30.5	▲ 20.3	▲ 14.7
製造業計	123	12.2	61.8	26.0	▲ 13.8	▲ 12.5

### 【資金繰り】

10～12月期の資金繰りDI（前期比、「好転」－「悪化」）は▲5.7と、マイナス（悪化超）幅は縮小した（前々回▲9.1→前回▲10.9→今回▲5.7）。業種別内訳をみると、金属製品、その他の製造業でマイナス幅が縮小し、機械器具でマイナスから±0となった。

表11. 資金繰り

業種	当期資金繰りは前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	32	12.5	65.6	21.9	▲ 9.4	▲ 18.5
機械器具	32	9.4	81.3	9.4	0.0	▲ 6.1
その他の製造業	59	5.1	83.1	11.9	▲ 6.8	▲ 10.2
製造業計	123	8.1	78.0	13.8	▲ 5.7	▲ 10.8

## 【受注状況】

10～12月期の受注状況DI（前期比、「好転」－「悪化」）は▲11.4と、マイナス（悪化超）幅は拡大した（前々回▲9.0→前回▲3.9→今回▲11.4）。業種別内訳をみると、金属製品、その他の製造業でマイナス幅が縮小し、機械器具でマイナス幅が縮小した。

表12. 受注状況

業種	当期受注状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	32	15.6	53.1	31.3	▲ 15.7	▲ 3.7
機械器具	32	15.6	65.6	18.8	▲ 3.2	▲ 12.5
その他の製造業	59	10.2	66.1	23.7	▲ 13.5	0.0
製造業計	123	13.0	62.6	24.4	▲ 11.4	▲ 3.9

## 【設備投資額】

10～12月期の設備投資額DI（前年同期比、「増加」－「減少」）は▲2.5と、マイナス（減少超）に転じた（前々回0.0→前回7.1→今回▲2.5）。業種別内訳をみると、金属製品、その他の製造業でマイナスに転じ、機械器具でマイナスから±0となった。

表13. 設備投資額

業種	当期設備投資額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		増加	横這	減少		
金属製品	32	12.5	71.9	15.6	▲ 3.1	23.1
機械器具	31	16.1	67.7	16.1	0.0	▲ 18.2
その他の製造業	59	13.6	69.5	16.9	▲ 3.3	13.2
製造業計	122	13.9	69.7	16.4	▲ 2.5	7.1

## 【向こう3カ月の景況】

10～12月期における向こう3カ月の景況判断DI（「好転」－「悪化」）は▲19.5と、マイナス（悪化超）幅は拡大した（前々回▲12.1→前回▲12.1→今回▲19.5）。業種別内訳をみると、金属製品、その他の製造業でマイナス幅が拡大し、機械器具でマイナス幅が縮小した。

表14. 向こう3カ月の景況

業種	向こう3カ月の景況					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	32	3.1	59.4	37.5	▲ 34.4	▲ 7.1
機械器具	32	15.6	53.1	31.3	▲ 15.7	▲ 17.2
その他の製造業	59	11.9	62.7	25.4	▲ 13.5	▲ 11.6
製造業計	123	10.6	59.3	30.1	▲ 19.5	▲ 12.1

## 2. 非製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



⇒

薄日

(今回)



## 建設業

景況天気図は

(前回)



⇒

薄日

(今回)



10～12月期の状況を各種DI（前期比）で見ると、売上額はマイナス幅が拡大した。

工事引合件数がプラスに転じ、受注単価が改善したものの、他の全ての項目でマイナスに転じた。

依然として資材仕入価格、労務費といった企業のコスト負担が高まる中、受注単価は横ばい傾向であり、採算状況の悪化につながっている状況が見受けられる。一方で、工事引合件数に改善の様子が見られることから、今後の受注状況の改善が期待される。

向こう3カ月の景況でマイナス幅が拡大しており、今後への期待感がうかがえる。

表15.建設業の景気動向

景気動向指標	回答数	構成比(%)			DI	前回DI	
		増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化			
前期比	売上額	25	20.0	40.0	40.0	▲ 20.0	▲ 10.0
	資材仕入価格	25	52.0	44.0	4.0	48.0	45.0
	労務費	25	28.0	68.0	4.0	24.0	25.0
	工事引合件数	25	24.0	60.0	16.0	8.0	▲ 10.0
	受注単価	25	16	76	8	8.0	5.0
	採算状況	25	12	64	24	▲ 12.0	▲ 20.0
	資金繰り	25	8	72	20	▲ 12.0	20.0
	受注状況	25	20	48	32	▲ 12.0	5.0
向こう3カ月の景況	25	8	72	20	▲ 12.0	15.0	
前年同期比	売上額	25	32	40	28	4.0	35.0
	受注状況	24	16.7	62.5	20.8	▲ 4.1	10.0
	設備投資額	24	8.3	87.5	4.2	4.1	10.0

## 卸売業

景況天気図は

(前回)



⇒

曇り

(今回)



10～12月期の状況を各種DI（前期比）で見ると、売上額はプラス域からマイナスに転じた。

そのほか大半の指標において前期比でマイナスとなり、商品仕入価格、商品販売価格以外では、プラス域からマイナス域へ転じた。

客単価への価格転嫁が十分とは言えず、販売先数・客数が伸びないことも売上高に影響している状況が見て取れ、採算状況は横ばいで推移しているものの、粗利益率の悪化傾向につながっている可能性がある。

向こう3カ月の景況も非常に大きくマイナスとなり、プラス域からマイナス域に転じており、今後の動向には注意が必要である。

表16.卸売業の景気動向

景気動向指標	回答数	構成比(%)			DI	前回DI	
		増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化			
前期比	売上額	14	7.1	57.1	35.7	▲ 28.6	23.1
	販売先数・客数	14	0.0	85.7	14.3	▲ 14.3	23.1
	客単価	14	7.1	71.4	21.4	▲ 14.3	23.1
	商品仕入価格	14	28.6	71.4	0.0	28.6	38.5
	商品在庫	14	0.0	85.7	14.3	▲ 14.3	7.7
	商品販売価格	13	0.0	100.0	0.0	0.0	38.5
	採算状況	14	0.0	92.9	7.1	▲ 7.1	15.4
	資金繰り	14	0.0	78.6	21.4	▲ 21.4	15.4
	粗利益率	14	0.0	85.7	14.3	▲ 14.3	15.4
	向こう3カ月の景況	14	14.3	57.1	28.6	▲ 14.3	30.8
前年同期比	売上額	14	14.3	50.0	35.7	▲ 21.4	53.8
	販売先数・客数	14	14.3	64.3	21.4	▲ 7.1	38.5
	設備投資額	14	0.0	85.7	14.3	▲ 14.3	53.8

## 小売業

景況天気図は

(前回)



⇒

晴れ

(今回)



10～12月期の状況を各種DI（前期比）で見ると、売上額のプラス幅は縮小した。

販売先数・客数のDIはマイナスに転じ、客単価をはじめ、各項目±0の項目が半数を占めるものの、他の項目については、以前としてプラス幅を維持している。

一部の企業では採算状況や資金繰りが改善した企業が見られるものの、向こう3カ月の景況は、プラス域から0となっており、小売業全体としては注視が必要であると言える。

表17.小売業の景気動向

景気動向指標	回答数	構成比(%)			DI	前回DI	
		増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化			
前期比	売上額	9	44.4	22.2	33.3	11.1	21.4
	販売先数・客数	9	22.2	44.4	33.3	▲ 11.1	7.1
	客単価	9	11.1	77.8	11.1	0.0	14.3
	商品仕入価格	9	55.6	44.4	0.0	55.6	57.1
	商品在庫	9	11.1	77.8	11.1	0.0	0.0
	商品販売価格	9	44.4	44.4	11.1	33.3	35.7
	採算状況	9	22.2	55.6	22.2	0.0	0.0
	資金繰り	9	11.1	88.9	0.0	11.1	0.0
	粗利益率	9	33.3	44.4	22.2	11.1	14.3
	向こう3カ月の景況	8	12.5	75.0	12.5	0.0	7.1
前年同期比	売上額	9	44.4	11.1	44.4	0.0	28.6
	販売先数・客数	9	22.2	55.6	22.2	0.0	28.6
	設備投資額	9	11.1	77.8	11.1	0.0	35.7

## サービス業

景況天気図は

(前回)



⇒

晴れ

(今回)



10～12月期の状況を各種DI（前期比）で見ると、採算状況を除き、全ての項目でマイナスに転じた。客数、客単価が落ち込むことで、売上高の減少につながった状況が見て取れる。

また、採算状況が横ばいであるが、客単価の改善が見られない中、人件費等の高騰によるコスト負担の増加が影響している可能性がある。

向こう3ヵ月の景況もマイナス幅が拡大しており、注視が必要である。

表18.サービス業の景気動向

景気動向指標	回答数	構成比(%)			DI	前回DI	
		増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化			
前期比	売上額	33	21.2	45.5	33.3	▲ 12.1	20.9
	客数	33	18.2	57.6	24.2	▲ 6.0	25.0
	客単価	33	15.2	66.7	18.2	▲ 3.0	0.0
	採算状況	33	15.2	69.7	15.2	0.0	0.0
	資金繰り	34	8.8	79.4	11.8	▲ 3.0	4.0
	粗利益率	32	25.0	53.1	21.9	3.1	▲ 8.3
	向こう3ヵ月の景況	34	17.6	67.6	14.7	2.9	4.0
前年同期比	売上額	33	30.3	42.4	27.3	3.0	25.0
	客数	33	24.2	48.5	27.3	▲ 3.1	41.6
	設備投資額	33	15.2	66.7	18.2	▲ 3.0	16.6

### 3. 2025年の冬季賞与の支給状況について

#### (1) 2025年の冬季賞与の支給状況について

「2025年度の冬季賞与の支給状況」について尋ねたところ、全体（回答事業所数は185）では、「支給したが、支給額は前年と同等であった」が53.5%と最も高くなった。続いて、「支給し、支給額は前年より増額となった」が29.2%、「支給しなかった」が10.3%となった。

業種別では、製造業においては「支給したが、支給額は前年と同等であった」と回答した企業が50.5%、次いで「支給し、支給額は前年より増額となった」が32.1%、「支給したが、支給額は前年より減額となった」が10.1%となった。非製造業においては「支給したが、支給額は前年と同等であった」が57.9%、次いで「支給し、支給額は前年より増額となった」が25.0%、「支給しなかった」が14.5%となり、業種による差が見られた。

#### (1) 2025年度の冬季賞与の支給状況（業種別）

業種	（%）		
	全産業 〈185〉	製造業 〈109〉	非製造業 〈76〉
支給し、支給額は前年より増額となった	29.2	32.1	25.0
支給したが、支給額は前年と同等であった	53.5	50.5	57.9
支給したが、支給額は前年より減額となった	7.0	10.1	2.6
支給しなかった	10.3	7.3	14.5

（注）〈 〉内は回答事業所数

#### (1) 2025年度の冬季賞与の支給状況（従業員別）

従業員	（%）				
	全規模 〈185〉	5～19人 〈98〉	20～49人 〈59〉	50～99人 〈17〉	100人以上 〈11〉
支給し、支給額は前年より増額となった	29.2	28.6	28.8	35.3	27.3
支給したが、支給額は前年と同等であった	53.5	52.0	54.2	64.7	45.5
支給したが、支給額は前年より減額となった	7.0	7.1	8.5	0.0	9.1
支給しなかった	10.3	12.2	8.5	0.0	18.2

（注）〈 〉内は回答事業所数

## 4. 大阪・関西万博による効果について

### (1) 大阪・関西万博による影響有無について

「大阪・関西万博による影響有無」について尋ねたところ、全体（回答事業所数は204）では、「特に影響はなかった」が90.7%と最も高くなった。続いて、「比較的よい影響があった」が7.8%、「非常によい影響があった」が1.5%となった。

業種別では、製造業においても「特に影響はなかった」と回答した企業が91.1%、次いで「比較的よい影響があった」が8.1%、「非常によい影響があった」が0.8%となった。非製造業においても「特に影響はなかった」が90.1%、次いで「比較的よい影響があった」が7.4%、「非常によい影響があった」が2.5%となり、業種による差は見られなかった。

#### (1) 大阪・関西万博による影響有無（業種別）

業種	（%）		
	全産業 〈204〉	製造業 〈123〉	非製造業 〈81〉
非常によい影響があった	1.5	0.8	2.5
比較的よい影響があった	7.8	8.1	7.4
特に影響はなかった	90.7	91.1	90.1

（注）〈 〉内は回答事業所数

#### (1) 大阪・関西万博による影響有無（従業員別）

従業員	（%）				
	全規模 〈204〉	5～19人 〈104〉	20～49人 〈68〉	50～99人 〈18〉	100人以上 〈14〉
非常によい影響があった	1.5	1.0	0.0	11.1	0.0
比較的よい影響があった	7.8	3.8	13.2	5.6	14.3
特に影響はなかった	90.7	95.2	86.8	83.3	85.7

（注）〈 〉内は回答事業所数

## (2) 大阪・関西万博における取組み概要について

「大阪・関西万博における取組み概要」について尋ねたところ、全体（回答事業所数は200）では、「特になし」が88.5%と最も高くなった。続いて、「展示出展」が5.5%、「万博に関連した受注（製品・サービス・施工など）」が5.0%となった。

業種別では、製造業においても「特になし」と回答した企業が86.6%、次いで「展示出展」が6.7%、「万博に関連した受注（製品・サービス・施工など）」が5.9%となった。非製造業においては「特になし」が91.4%、次いで「万博に関連した受注（製品・サービス・施工など）」、「展示出展」、「万博関連イベント参加」が3.7%、「資材やサービスの提供」が1.2%となり、業種による差が見られた。

### (2) 大阪・関西万博における取組み概要（業種別）

(%)

業種	全産業 〈200〉	製造業 〈119〉	非製造業 〈81〉
万博に関連した受注(製品・サービス・施工など)	5.0	5.9	3.7
資材やサービス提供	1.5	1.7	1.2
グッズ等の生産	0.5	0.8	0.0
展示出展	5.5	6.7	3.7
万博関連イベント参加	4.5	5.0	3.7
特になし	88.5	86.6	91.4
その他	0.5	0.8	0.0

(注)〈 〉内は回答事業所数

### (2) 大阪・関西万博における取組み概要（従業員別）

(%)

従業員	全規模 〈200〉	5~19人 〈102〉	20~49人 〈66〉	50~99人 〈18〉	100人以上 〈14〉
万博に関連した受注(製品・サービス・施工など)	5.0	2.0	9.1	11.1	0.0
資材やサービス提供	1.5	2.9	0.0	0.0	0.0
グッズ等の生産	0.5	1.0	0.0	0.0	0.0
展示出展	5.5	3.9	6.1	5.6	14.3
万博関連イベント参加	4.5	3.9	1.5	16.7	7.1
特になし	88.5	92.2	86.4	77.8	85.7
その他	0.5	0.0	0.0	0.0	7.1

(注)〈 〉内は回答事業所数

### (3) 大阪・関西万博による社内外の効果について

「大阪・関西万博による社内外の効果」について尋ねたところ、全体（回答事業所数は201）では、「特になし」が88.6%と最も高くなった。続いて、「従業員の意識変化」が6.5%、「自社の認知度向上」が4.5%となった。

業種別では、製造業においては「特になし」と回答した企業が89.2%、次いで「従業員の意識変化」が6.7%、「広報機会の増加」が5.8%となった。非製造業においては「特になし」が87.7%、次いで「従業員の意識変化」が6.2%、「新規の受注があった」、「自社の認知度向上」が3.7%となり、業種による差が見られた。

### (3) 大阪・関西万博による社内外の効果（業種別）

(%)

業種	全産業 〈201〉	製造業 〈120〉	非製造業 〈81〉
新規の受注があった	2.5	1.7	3.7
新たな取引先の増加	2.0	2.5	1.2
新商品・技術の開発を行った	2.0	2.5	1.2
新たな設備投資を行った	2.5	3.3	1.2
自社の認知度向上	4.5	5.0	3.7
従業員の意識変化	6.5	6.7	6.2
広報機会の増加	4.0	5.8	1.2
新たな雇用が発生	2.0	1.7	2.5
特になし	88.6	89.2	87.7
その他	0.0	0.0	0.0

(注)〈 〉内は回答事業所数

### (3) 大阪・関西万博による社内外の効果（従業員別）

(%)

従業員	全規模 〈201〉	5~19人 〈103〉	20~49人 〈66〉	50~99人 〈18〉	100人以上 〈14〉
新規の受注があった	2.5	2.9	3.0	0.0	0.0
新たな取引先の増加	2.0	2.9	0.0	0.0	7.1
新商品・技術の開発を行った	2.0	1.9	1.5	0.0	7.1
新たな設備投資を行った	2.5	0.0	4.5	5.6	7.1
自社の認知度向上	4.5	2.9	6.1	5.6	7.1
従業員の意識変化	6.5	3.9	7.6	11.1	14.3
広報機会の増加	4.0	1.9	4.5	11.1	7.1
新たな雇用が発生	2.0	2.9	0.0	5.6	0.0
特になし	88.6	93.2	86.4	72.2	85.7
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(注)〈 〉内は回答事業所数

#### (4) 大阪・関西万博の影響を踏まえた次年度の売り上げ見込み（前年度比）について

「大阪・関西万博の影響を踏まえた次年度の売り上げ見込み（前年度比）」について尋ねたところ、全体（回答事業所数は200）では、「ほぼ同程度の見込み」が61.5%と最も高くなった。続いて、「現時点では判断が難しい」が24.5%、「やや減少する見込み」が7.0%となった。

業種別では、製造業においても「ほぼ同程度の見込み」と回答した企業が60.0%、次いで「現時点では判断が難しい」が25.0%、「やや減少する見込み」が7.5%となった。非製造業においても「ほぼ同程度の見込み」が63.8%、次いで「現時点では判断が難しい」が23.8%、「やや減少する見込み」が6.3%となり、業種による差は見られなかった。

#### (4) 大阪・関西万博の影響を踏まえた次年度の売り上げ見込み（前年度比）（業種別）

業種	（％）		
	全産業 〈200〉	製造業 〈120〉	非製造業 〈80〉
大幅に増加する見込み	0.5	0.8	0.0
やや増加する見込み	3.5	4.2	2.5
ほぼ同程度の見込み	61.5	60.0	63.8
やや減少する見込み	7.0	7.5	6.3
大幅に減少する見込み	3.0	2.5	3.8
現時点では判断が難しい	24.5	25.0	23.8

（注）〈 〉内は回答事業所数

#### (4) 大阪・関西万博の影響を踏まえた次年度の売り上げ見込み（前年度比）（従業員別）

従業員	（％）				
	全規模 〈200〉	5～19人 〈104〉	20～49人 〈66〉	50～99人 〈17〉	100人以上 〈13〉
大幅に増加する見込み	0.5	0.0	0.0	0.0	7.7
やや増加する見込み	3.5	2.9	3.0	5.9	7.7
ほぼ同程度の見込み	61.5	65.4	57.6	64.7	46.2
やや減少する見込み	7.0	5.8	7.6	17.6	0.0
大幅に減少する見込み	3.0	3.8	3.0	0.0	0.0
現時点では判断が難しい	24.5	22.1	28.8	11.8	38.5

（注）〈 〉内は回答事業所数

## 5. 2025年度の冬季賞与の支給状況、大阪・関西万博による効果を含めた自由回答

現在の景況感の原因等について、企業から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種	規模	コメント内容
製造業	A	ミヤクミヤクくんの金平糖を筆頭に商品売上と体験教室の需要は伸びていたが、万博開催中、万博会場に人が密集することで観光地に人の少ない状況となり、製品の売上が20%減となっていた。万博が終わり製品売上がまた伸び、商品売上が鈍化するという状況になっていて、今期は新商品で盛り返す予定。
製造業	A	万博は大阪にメリットが無い物であった
建設業	A	これから先の為に受注先を増やしていています。

(注1) 規模：A=5～19人、B=20～49人、C=50～99人、D=100～299人、E=300人以上

(注2) コメントはできるだけ原文のまま掲載しているが、一部にご意見の主旨を曲げることなく加筆・修正している場合がある。また、コメントは調査を実施した2026年1月時点のものである。





 **八尾商工会議所**

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)922-1181  
<http://www.yaocci.or.jp>

 **八尾市** 魅力創造部産業政策課

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)924-3845  
八尾商工会議所会館内  
<http://www.city.yao.osaka.jp>